

大阪市立科学館 企画展



万博で夢見たサイエンス

2024年12月6日(金)～2025年4月6日(日)



月の石
(2025年2月5日～)



IBM System/360
(～2025年1月26日)

所蔵：京都コンピュータ学院
KCGコンピュータミュージアム



タイム・カプセルEXPO'70

場 所：大阪市立科学館 展示場1階

観覧料：常設展示場観覧料

大人 400 円

学生(高校・大学)300 円

中学生以下無料

主 催：大阪市立科学館

両側の写真は全て大阪府提供



大阪市立科学館
OSAKA SCIENCE MUSEUM

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-1
TEL 06-6444-5656 <https://www.sci-museum.jp/>

開館時間

9:30 ～ 17:00

展示場観覧券の発券・入場は 16:30 まで
プラネタリウム最終投影は 16:00 から

休館日

毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)、12/28(土)～1/4(土)、2/4(火)



科学館 HP

2024年12月6日(金)～2025年1月26日(日)は前期展示を、
2025年2月5日(水)～4月6日(日)は後期展示をご観覧頂けます。
2025年1月28日(火)～2月3日(日)は共通展示のみとなります。



- Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋駅」3号出口から西へ約 500m
- 京阪電車 中之島線「渡辺橋駅」2号出口から南西へ約 400m
- 阪神・JR 大阪環状線「福島駅」、JR 東西線「新福島駅」から南へ約 1km

1970 年 大阪万博が描いた 夢・未来・サイエンス

1970 年の万博では、人々は宇宙やメカ、コンピュータなどのサイエンスと出会い、そこにいずれ実現するだろう未来を夢見ました。本企画展では、人々に夢を見させたサイエンスがどんなものだったのかを資料で振り返り、現在にそれがどう展開してきたのかを紹介します。

共通展示

1851 年に始まった万博では、常に世界の文物と科学技術の成果が紹介され、人々は未来の社会を夢見てきました。では、万博では具体的に何が展示されたのでしょうか。大阪で開催され、6400 万人が来場した 1970 年万博のタイムカプセル EXPO' 70 の中身や、話題となった人間洗濯機の映像などを中心に、人々が万博で夢見たサイエンスを紹介します。

松下館に展示されていたタイムカプセル EXPO' 70



前期

(12 月 6 日～ 2025 年 1 月 26 日)

1970 年万博は、それまで専門家のものだったコンピュータを自分で操作し、その威力を知り、コンピュータが身近にある未来を夢見ることができる場でした。本展前期では、万博でのコンピュータ展示を、その時期に使われた大型コンピュータ「IBM System/360」の実物をまじえて紹介し、1970 年から現在までに、コンピュータがいかに身近になってきたのかをご覧ください。



IBM System/360
入力キーボード及びプリンタ
所蔵：京都コンピュータ学院
KCGコンピュータミュージアム

後期

(2025 年 2 月 5 日～ 4 月 6 日)

1970 年万博の最大の呼び物は「月の石」でした。米国アポロ宇宙船の有人月面探査の成果を一目見ようと人々が押し寄せ、米国のライバルであるソ連の宇宙開発展示とともに、人々を宇宙が身近になる未来へといざないました。本展後期では NASA が所蔵する「月の石」実物資料とともに、日本が実施した小惑星の石の採取などについても紹介し、万博から半世紀以上続く宇宙への夢の行方をご覧ください。



アポロ月面活動服（レプリカ）
所蔵：一般財団法人日本宇宙フォーラム

関連イベント

スペシャルナイト月の石ナイト

大阪市立科学館での「月の石」展示にちなんで、月の石を運んできたアポロ宇宙船の全天周映像の上映と、月の石やイトカワ、リュウグウのサンプル分析にも携わられた宇宙物質の専門家、立命館大学招聘教授 土山 明先生の講演会を行います。展示されている月の石の価値がよく分かる！月の石づくしの 2 時間です。

日 時：2025 年 3 月 1 日（土） 18 時 30 分～ 20 時 30 分（開場 18 時）

場 所：大阪市立科学館 プラネタリウム

参加費：1,500 円（一律料金）

申 込：以下のいずれかの方法で前売券をお求めください。

※2025 年 1 月 7 日（火）9：30～販売開始予定、
売り切れ次第販売を終了します。（定員 250 名）

- ①大阪市立科学館 Web チケット購入サイト
- ②科学館チケットカウンター（休館日を除く）



Web チケット
購入サイト



土山 明 先生